

# 畜産

## 【肥育牛】 肥育中期、生後 13 か月齢から 22 か月齢まで

飼い直し期間に粗飼料を与えると、13 か月齢からは、1 か月間で 0.5～2kg のペースで濃厚飼料を上げることができます。素牛のレベル、素質によって増給スピードを変えて、その牛なりのピーク時の飼料摂取量へいち早く到達させます。生後 10 か月齢で導入したなら半年後にはピークまでもっていきましょう。

生後 20 か月齢前後での食い止まりを防止し、鹿島槍ヶ岳のような 2 つのピークをもつような飼い方を避けます。まずは、飼料給与して 1 時間後に第 1 胃がしぼんでしまって元気のない牛を見つけ出して、原因を観察しましょう。

### 1 食い止まりの対策

#### ①血統、第 1 胃、飼い直し

増体系か資質系に合わせて濃厚飼料の打ち込み時期を変えます。一貫なら◎生後 1 週間後の発育、◎生後 3 か月齢の体重、体高、粗飼料の摂取量、生後 17 か月齢の体重、姿、飼料摂取量などをチェックしましょう。

素牛を導入してから 2 か月間は、1 日 5 回に分けて数種類の粗飼料を与えます。去勢で 5 kg、牝で 4 kg の給与はかなりの量です。

素牛を導入してから生後 16 か月齢までの半年間は、大豆粕を今までより 0.2kg 多く給与し頸と肩をつくります。

#### ②ビタミン A 欠乏症

素牛導入時のビタミン A の補給量、ビタミン A の多い飼料の切る時期の検討です。ビタミン A が早く出やすい場合は、素牛導入時に 50～250 万単位を投与します。

生後 13 か月齢前後からビタミン A を切るので、半年後の生後 20 か月齢頃で食い止まりが起きやすくなります。生後 12～20 か月齢の間は脂肪細胞のもとが大量に作られる時期なのでビタミン A の補給はできるだけ避け 1 回までとします。

生後 18 か月齢以降は週に 1 回、瞳孔の反射速度を測定します。生後 20 か月齢に懐中電灯を照射して瞳孔が閉じるのが 6～8 秒で適正、瞳孔の反射速度が去勢で 8 秒、牝は 10 秒以上でかなり切れています。健康な牛は 2～3 秒で閉じます。

ビタミン A 検査を行い、明らかにビタミン A 欠乏症が出ている牛には 1 か月当たり 30～50 万単位とします。投与量を間違えないように。

交雑種ではビタミン A の消費量が多いので、生後 20 か月齢から月に 1～2 回、3～12 万単位を補給する場合があります。

#### ③小技を駆使して乗り切る

VFA のプロピオン：酢酸：酪酸＝30：50：20 で飼料効率向上、サシが入ります。尿石に塩化アンモニウムと水。鼓張症に酢と油を 250 ml：250ml、打ち込み時期が早すぎないか、粗飼料のカビ、給水量は十分か 10 kg の飼料で水 40 リットル、バラの厚さは敷料の厚さ、3 頭以上の群飼は除角、角カバー、蹄の管理、ウオーターカップは掃除をこまめに、十分な量を確保。ゼオライトのトッピング、生菌剤、ウルソ、濃厚半日切り。

## 【繁殖・仔牛育成】(俵牛づくりより)

### 1 1 年 1 産にする

分娩してから受胎まで 80 日 妊娠期間 285 日 分娩間隔が 1 か月長くなると 40 万の仔牛で 3.2 万の生産費の増加になります。

### ①発情発見率の向上

- 観察回数を増やす 発情発見率は1日1回で60%、4回なら100%です。
- 用具を利用する 牛歩 テールペイントを利用して観察時間の短縮、省力化
- 計画的授精 発情同期化、ホルモン剤で頭数増加に対応

### ②授精適期を見逃さない

- 他の牛に近づいて尾を舐める、最盛期は乗駕を嫌がらない、後期は乗駕を嫌う
- 発情開始後6～18時間（12時間後中心）で授精。

### ③分娩前後の管理

- 牛温恵を利用して分娩に立ち会う
- 計画出産などでは、お産予定の3週間前から牛舎全体で夜のみ濃厚・粗飼料を給与する。
- 分娩前にDCAD飼料を1日500gから始め、2～4kg給与し、後産停滞や子宮内膜炎を予防します

### ④BCSのチェック

腰角と背骨（仙骨）の間に細い棒などを差し渡し、メジャー等で仙骨靭帯との深さを求めます。深さが2.5cmから3.0cmならベストコンディションです。

BCS	4.0	3.5	3.0	2.5	2.0
深さ	1.5	2.0	2.5	3.0	3.5

ホールクロップサイレージは過肥になりやすいので、栄養価の少ないイナワラ1kgと乾草5kgを与えます。乾草は、ウイートストロー（小麦ワラ）、オーツヘイ（燕麦乾草）、フェスクストロー、バミューダーストロー、スーダングラスなど。

### ⑤繁殖和牛の血液検査

ビタミンA、総コレステロール、肝機能のγ-GTPで2000円程度が相場です。

推奨値は

分析項目	ビタミンA	総コレステロール	γ-GTP
推奨値	30-60	150以上	30以下

## 2 良い繁殖雌牛を増やす

○繁殖頭数を増やすと家族労働費が安くなります ○育種価、血統の優れた繁殖牛、高育種価牛から後継牛を選ぶ、分娩間隔400日以内を目指す、8産以下の牛群構成とする。アウトクロス交配・サンドイッチ交配で近親交配を避ける。同系統で優れた種雄牛を活用する。

## 3 素牛づくり

○順調に発育した素牛 ○下痢、風邪をさせない、分娩に立ち会い初乳代用乳の利用、30℃箱暖房と仔牛用ベスト ○胸囲と腹囲の差が30cm以上の粗飼料をよく食べる素牛。育成飼料を早期に十分に食べ込めない牛は乾草の増量についていけません。

月齢	育成飼料	大豆粕	乾草
5か月齢	4kg	0.1	1.5
7か月齢	4kg	0.3	3.2

## 4 高齢化に合わせた牛舎づくり

60歳の方が30年続けられれば後継者を1人確保したと同じです。給餌と除糞に効率的に設備投資して90歳まで働ける牛舎環境を整えます。